病牛の素人療法

374
344

始

特100
232

凡例

本書中に列記した病氣の分類は著者の新趣向で一番主な徵候に依つたのである。

其主徵候が二つ以上あつて分類に苦しんだものは其内一つの分によつて分類して置いた。

本書中の徵候は獸醫的徵候でなくて畜主的徵候のみであるから器械や注射の反應で知る徵候は一切擧げなかつた。

本書中の原因も器械によつて鑑定するやうなものは一切之を避け療法も劇藥によるものなどは一切載せなかつた。

劇藥は素人には賣らぬからである。

大正
2. 8. 5
内交

療法し能はぬ病氣でも諸君の注意を惹くに大切なものは記載して置いた。

療法の藥品中自家に於て調ふべきものは合又は夕を用ひ藥店で購入するものは瓦又は立方センチメートルを用ひた。

水藥で三、〇とあるのは三立方センチメートルを云ひ粉藥で五、〇とあるのは五瓦を云ふのである。

尙念のために附錄として瓦と夕との對照表を添へて置いた。

藥品の投與法は別に書かなかつたが一般に竹の筒に入れて飲ませてやればよろしいのである。

緒言

著者は決して學者ではない。一個の獸醫である。著者が日夜手當して居る病牛は大抵農家諸君が自ら拵らへた病氣が多い樣に思ふ。又大方は治療の期を失した可哀相な重患……云ひ換へると死亡率の多い病氣……に罹つて居る。著者は常に農家諸君にして若し病牛の診斷法の大意や治療法のあらましを會得して居て呉れたらこんな間違はあるまいのにと切に考へて居たのである。

そこで本書は生れたのである。

農家諸君の座右の備へ付に生れたのである。本書の爲めに一頭の牛

ても自家に於て治療し診斷する事が出來たら著者の幸甚とする處である。

先輩各位の批評に對しては甘んじて受ける考である。

大正二年七月

北勢の寓居にて

著者識

目次

總論……一
疾病の鑑定法……四
應急の手當法……五
各疾病の診斷治療法……六
一、貧血する疾病……六
貧血病
二、肥胖する疾病……七
肥胖
三、狂亂する疾病……八
(イ)腦充血 (ロ)日射病 (ハ)熱射病

目次

四、眩暈する疾病……一二
腦貧血
五、角の疾病……一二
(イ)角折傷　(ロ)角脱
六、眼の疾病……一四
角膜創傷
七、鼻の疾病……一五
(イ)急性鼻腔加答兒　(ロ)慢性　(ハ)鼻血
八、口中の疾病……一九
(イ)口内異物　(ロ)舌創　(ハ)加答兒性口炎　(ニ)亞布答性口炎
九、涎を出す疾病……二七
(イ)咽頭梗塞　(ロ)食道梗塞
十、舐める疾病……二九

舐病
十一、呼吸が早くなる疾病……三〇
肺充血
十二、咳嗽を發する疾病……三二
(イ)急性喉頭加答兒　(ロ)慢性喉頭加答兒　(ハ)急性氣管枝加答兒
(ニ)慢性氣管枝加答兒　(ホ)格魯布性氣管枝炎　(ヘ)異物性肺炎
(ト)肺結核
十三、胸に疼痛ある疾病……四一
創傷性心嚢炎
十四、熱の高い疾病……四二
(イ)流行性感冒　(ロ)牛疫　(ハ)炭疽
十五、消化不良の疾病……四七
(イ)齒換不正　(ロ)斜齒　(ハ)創傷性胃横隔膜炎

十六、秘結する疾病……五一
（イ）急性胃弱と急性胃腸加答兒　（ロ）慢性胃腸加答兒　（ハ）單純胃腸炎　（ニ）黴性腸炎
十七、下痢のある疾病……六二
幼牛の胃腸加答兒
十八、糞に異常ある疾病……六四
（イ）格魯布性腸炎　（ロ）胃腸出血
十九、腹の膨れる疾病……六六
（イ）食滯　（ロ）急性皷腸　（ハ）慢性皷腸
二十、尿の減ずる疾病……七一
急性腎炎
廿一、發情のない疾病……七三
春情不發
廿二、產の疾病……七五
（イ）陣痛異常　（ロ）胎兒膜變硬　（ハ）膣損傷　（ニ）膣脫　（ホ）子宮脫　（ト）娩隨停滯
廿三、乳の疾病……八二
（イ）乳管欠如と乳管狹窄　（ロ）加答兒性乳房炎　（ハ）膿腫性乳房實質炎　（ニ）血乳
廿四、陰部から汁を出す疾病……八七
（イ）子宮出血　（ロ）白帶下
廿五、陰囊の膨れる疾病……八八
陰囊水腫
廿六、腫瘍の出來る疾病……九〇
（イ）耳下腺炎　（ロ）星菌腫　（ハ）顎骨星菌腫　（ニ）氣腫疽
廿七、水疱の出來る疾病……九五

流行性竇口瘡
廿八、不慮の疾病……九七
（イ）唇又は頰の創傷及挫傷　（ロ）舌又は頰の炎症　（ハ）頸筋膜及頸靱帶の挫傷及創傷　（ニ）鞍傷　（ホ）革具傷　（ヘ）頸部の損傷
廿九、禿の出來る疾病……一〇三
匐行疹
三十、起立し能はぬ疾病……一〇五
（イ）分娩前起立不能　（ロ）後體痲痺　（ハ）產褥熱　（ニ）腦脊髓膜炎
（ホ）脊髓骨折
卅一、跛行する疾病……一一三
（イ）肩跛行　（ロ）臆跛行　（ハ）橈骨神經痲痺　（ニ）指關節轉捩
（ホ）佝僂病　（ヘ）骨軟症　（ト）膿毒性關節炙　（チ）關節僂痲質斯
（リ）筋肉僂痲質斯

附錄

農家に常に備へしめたき藥品及其市價……一
瓦と匁との對照表……二

病牛の素人療法

齋木茂著述

總論

育牛の業が農家必須の事業であつて又國家安康の基である事は今更著者の喋々を要せぬ處であつて讀者諸君の夙に了知せられる處であらう。この農家必須の事業で國家安康の基たる育牛の事業は當局の倦まぬ奬勵と當業者の堅忍なる熱心とに依て穩健なる發達をなしつゝあるは國家の爲諸君の爲大盃を傾けざるを得ない次第である。しかし世間の育牛家諸君は夙に良牛を養ひつゝあるにも拘らず其飼育の標準に誤まる處がある爲其他色々の原因に依つて馴育した畜牛を

病に苦しましめ剰へ其應當の手當法を知らぬ爲めにあはれ一塵の灰に葬り去るの人も少くはない樣に思はれるし又獸醫の乏しい地では古來行ひ來りつゝある伯樂輩に大切な財産を預け苦悶に苦悶を重ねて居るものを一片の草根木皮の投與に甘んじ一朝斃死すれば天壽人力以て如何ともすべからずとして之を顧みない又若し偶然に？治癒すれば自己の投藥が與つて力があつた樣に云ひふらし藥九層倍の藥價を拂ひ盡して遂に一物をも得ぬ農家諸君の數は蓋し尠なかるまいと思はれる。

元來病氣には總て原因がある。原因にも畜主諸君が自ら與へられる疾病が大分ある。云ひ換へると諸君が拵らへつゝある病氣が少なくないと思ふ食物を多く與へ過ぎた爲に病氣をするのはやはり畜主諸君の罪である。運動の不足の爲めに起る病氣も同じくてある。かの恐るべき傳染病は何れかと云へば不潔の罪である。皮膚病の多くも手入の不充分な爲めである。感冒などのやうな病氣は一般に厩舍の溫度が不調和から來るのが多い。だから牛を飼ふ人々は常に病氣を未發に防ぐ方法を會得して居て貰はねばならぬ。病氣を未發に防ぐには第一に厩舍に注意せねばならぬ。厩舍は南向か東南向にして空氣と日光との注入を充分にし敷藁を一日一回宛取換へ尿溜を厩の外に拵らへる又食物は極清潔な腐敗したり黴などの附かぬものを時間を定めて與へ又食物を變へる時には一週間位前から漸次變へて行か

ねばならぬそして一日二三時間宛牽運動か又は放牧をさせ毎日一回宛身體を毛櫛根櫛て掃除するのである。犢牛を親から離すのには牝は四ヶ月牡は三ヶ月位必ず哺乳させてからてなくてはならぬ。又離すのには一週間位前からだん〳〵と乳を減じて行くのが肝要である。兎に角一ヶ月に一回や二ヶ月に一回位厩舎をのぞく樣な事では病氣を見出す事が出來ずよし見出したにしても既に最も重くなつた時が多いのだから。毎日數回は必ず牛に接せなければならぬものである。しからば

病氣の鑑定

はどうするのかと云ふと一、牛が食物を常の通り食べなくなつたらば何かの病氣であると考へて先づ差支なからう二、鼻の先に露がなくなつたらば熱があると考へてよろしい。三、耳角四肢などが冷えたならばこれも熱があると考へて差支なからう。其外下痢があつたり、乳が出なくなつたりウンウンうなつたり跛行をしたり涙を出したり其他平常と異つた徵候があつたならば何病であらうかと思案せねばならぬ、これを見遁して仕舞つたり又は見て居ても大した事はあるまいと思ふと大變である。若し病氣の徵候が見えたならば

應急の手當法

をせねばならぬ。若し非常に苦しさうであればすぐ酒二三合を飲ませる。熱があるやうであれば身體に布とか蓆とかを卷きつけて溫め

てやる。傷したのであれば新しいのはすぐに水で冷やし跛行になれば取敢へず水に足を濕らす事が肝要である。

そして徐々に本書を繙いて其徴候の主なものによつて病名と療法とを調べて自家に於て行はれる丈けを行つて見る。そして自分の薬で効果がなかつたならば速に經驗と學問とに豊富な獸醫の來診を乞ふ事が肝要である。

若し傳染病の徴候があつたならば各傳染病の項に述べて置いた通り速かに役場か警察へ届出て、其指揮に從つて處置をせねばならぬ。

各疾病の診斷治療法

一、貧血する疾病

貧血病

徴候　皮膚と粘膜(眼の内側陰部など)が蒼白色になつて少しの仕事をさせても早く疲れ呼吸は速く食慾が減じ消化が惡い。

原因　肥り過ぎた牛。血を澤山に出した牛。病氣に罹つて居る牛などはよく貧血に罹り易い。

療法　滋養に富んだ消化し易い食物を與へて左の薬を連用するがよろしい。

硫酸鐵　九、〇

右三分し飼料に混じて與ふ。(一日量)

二、肥胖する疾病

肥胖

徵候 肥り過ぎるのであつて其爲め交尾力がなくなつてしまふ事がある。

原因 食物が多過ぎるのと運動の不足に依る事が多い。

療法 食物を減ずる事。滋養分に富むものを減ずる事。運動を充分にさせる事。水を減ずる事と左の藥を連用する事とである。

芒硝　一〇〇、〇

右溫湯に溶き一日三回に分服。（一日量）

三、狂亂する疾病

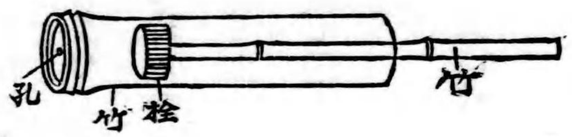
（イ）腦充血

徵候 牛が急に後退りをして漫りに高く飛び跳ね大きな鳴聲を出し時々人に角をむけ齒をギリギリと鳴らし時には倒れたり泡を吹き出したりして頭を後の方へ向ける。そして十四五分位すると急に靜かになつて頭をたれ飼槽に頭をもたらし丁度眠つて居るやうな風をして時々起き上つて厩の中をグルグルと廻る。又食べ物は食べなくなつて大小便は出す瞳孔は大きくなつて來る。四五時間位から二三日位で治る事もあるし又外の病を惹き起して死ぬる事もある。

原因 あまり使ひ過ぎた時、汽車や汽船で送る時、あまり暑い時、蒸し暑い時、感冒。鼓腸。過食。其他の病が此の原因になる。

療法 牛が騷いで居る時を見計らつて頸の靜脈の所をよく切れる

小刀とか剃刀とかを以て血を澤山に出すことが一番大切てある。其外始終氷嚢に布片をまいて頸を冷してやることも肝要である。手製の水鐵砲で澤山に水を灌腸してやる。そして左の薬を飲してやるのがよろしい。



芒硝　四五〇、〇

右溫湯適宜に溶き頓服させる。

夫て尙治らなかつたならば獸醫を招くのが肝腎てある。

（ロ）日射病

徵候　腦充血のやうな徵候を發して騷ぎ出し嘔吐したりなどする

呼吸は苦しくなつてとうとう死ぬる事などがある。

原因　あまり暑い日に外へ出して置くとこの病にかゝる。

療法　絶えず頭と體へ水をかけてやる。そして極めて凉しい所へ牽き付けて水を灌腸し五合計りの酒を飲ませる尙元氣が回復せぬ時はすぐに獸醫を賴むがよい。

（ハ）熱射病

徵候　暑い日に使ひ過ぎた時などに日射病と同じ樣な徵候の上に非常に高い熱が出る事がある。

療法　日射病と同じ療法でよろしい

四、眩暈する疾病

腦貪血

徵候　時々眩暈を起し卒かに倒れる

原因　いろいろあるが頸環で咽をしめたゝめに起る事が多い又産後に起る事がある。

療法　牛が卒倒した時には日本酒五合計りを一回に飲ませる事が一番大切である其他は獸醫の處置に待たねばならぬ。

五、角の疾病

（イ）角折傷

徵候　牛の頭が柱などで強くうたれた時に角が少し宛動き一種の音がする。そして角の生え際が腫れて居る。

療法　角の部分を三十倍の石炭酸でよく洗つて丁度角の形と同じ副木を拵へ角に結びつけて脫けぬ樣にするのが一番大切である。

（ロ）角脫

徵候　角が脫けるのを云ふ。

原因　角殊に牝牛の角は後から弱い力で叩いてもよく脫けるものである。

療法　脫けた角の跡へ左の藥を塗つてその上を繃帶して置くのがこの療法である。

木蠟兒　適宜

右脫角後に塗布

六、眼の疾病

角膜創傷

徵候　牛は眼をまばゆがつて始終閉ぢて居る。そしてよく涙を流す。眼の玉はドンヨリ曇つて來て甚だしいのは眼の中の水が出て仕舞ふ事がある。

原因　眼の中へ砂とか木片とかゞ當つたり入つたりするのが原因である。

療法　眼の中へ何か入つて居ないかと云ふ事を調べて若し入つて居れば取除かねばならぬ。

そして左の藥で時々眼を洗つてその後に脫脂綿と云ふ綿をあて繃帶をしその上へも左の藥をかけるがよろしい。

硼酸	一四、〇
水	二合五勺

右混和眼內洗滌

七、鼻の疾病

(イ)急性鼻腔加答兒

徵候　鼻の中が赤く乾いて鼻から出す息が熱くてよく汁を出す。鼻の中の赤いのは四五日たてば腫れて來て丁度腫物の樣になる。汁はだん〳〵粘つこくなつてしまひには膿の樣なものになる。

原因　この病氣は風邪のときによく起るものである又體の弱い

牛、不潔な厩舍、煙及其他の色々な病氣が此の原因となる。

療法　時々運動をさせて百倍の石炭酸を溫めて牛に嗅せるのである。そして左の藥を以て鼻の中を洗つてやるとよろしい。

明礬　一五、〇
溫湯　五合

右混和鼻腔洗滌

（ロ）慢性鼻腔加答兒

徵候　鼻の中が蒼白い色又は紫色になつてその部分が腫れて硝子の様に透つた粘つこいのか又は蛙の卵の様なのか乃至は穢い灰色な汁かを出す働いて居る中は汁は止つて居て休んで頭を低れる時に澤山に出る。そして短くとも四五ヶ月長ければ一年以上も治らぬ病である。

原因　急性鼻腔加答兒から轉じて來る。

療法　石炭酸、爹兒、的列並底油の中何れかの百倍の液を溫めて牛に嗅がせるのである。そして左の藥を以て鼻の中を洗つてやるのである。

（一）明礬　四、〇
溫湯　五勺

右混和鼻腔洗滌

（二）皓礬　二、〇

溫　湯　一合

右混和鼻腔洗滌

（ハ）鼻血（はなじ）

徵候　鼻からダラ〳〵と血を出す病である。この血が泡を含んで居るときは鼻血ではなくて肺の出血である。

療法　小出血ならば放任して置いて差支ない。大出血には鼻腔に栓をさして左の藥を飲ませるがよろしい。

兩方の鼻から出すときには栓をしてはならぬ。

單寧酸　二五、〇

溫　湯　適宜

右混和三回に分服（一日量）

八、口中の疾病

（イ）口内異物

徵候　牛の口の中へ釘とか針又は木の片などが入つて舌などに立ち込むと牛は涎を流して頭を振りたて口の中には食べ物がないのに拘らず頻りに咀嚼や嚥下の眞似をする。甚しいのになると上の齒と下の齒とが木の片で堅められてしまつて牛自身又は人が手傳つても口が開かぬ事がある。

療法　牛の口を開いて手で異物を拔き去るのがこの療法である。針はよく舌の後方から前方へ向つて立ち込んで居るから充分舌を引

き出して拔かねばならぬ。

異物の爲めに舌が非常に腫れて居れば小い針て舌の上へ傷をつけて血を出す事が大切てある。此時に舌の下の大きな動脈を傷けぬやうに氣を付けぬと血が止まらぬ事がある。血を出しても舌の腫れが退かなかつたら左の藥で時々口の中を洗ふ事が必要てある。無論食物は當分軟い者を與へる事が肝要てある。

明礬　二〇、〇
水　五合

右混和口內洗滌

（ロ）舌創

徵候　牛が口の近傍に物が觸れるのを嫌て涎を流し食べ物を多く食べなくなり咀嚼するに長い時間がかゝり極めて注意して食べ物を漁り時々口から血を出す事がある。

原因　これは舌に創をした爲て血の出るのは舌の血管が切れた爲めてある。

療法　食べ物を與へてから水て口の中を洗ひそして一日二回位宛酒を口へ入れて洗つてやる事が肝要てある。

舌の厚さの半分以上も創つけたときにはどうしても其部分を縫はねばならぬ。

先づ木綿針の大きいのと絹糸の太いのとを用意して牛を倒し舌を長

く引き出して其創よりもズット奥の處を手拭か何かでスッカリ結んて一人の人に其手拭を持たせ自分は縫ふのてある。縫ふた跡は左の藥て洗ひ六七日して創が治つたならば糸を拔くのて若し治らなかつたならば又縫ふのてある。縫ふのに氣を付けるのは餘り緊てはならぬ事てある。

硼酸	三〇、〇
水	五合

右混和口内洗滌

（八）加答兒性口炎

徵候　口の中が乾いて熱が出て舌の上に黑白いドロ〳〵したものが出來唇や頰の内側は赤くなり前齒の内蓋の方が腫れて來て口の中に甘い様な臭がする。だん〳〵重くなつて來ると赤くなつた唇や頰の内側が腫れて來て粘つこい唾を出す様になり日一日と食べ物が進まなくなる。

原因　口の中へ傷をしたり又は藥品の爲めか或は黴の付いた食物によつて出來る。

療法　輕い病氣ならば原因を調べてそれを取除く事てよろしい重いものは左の藥て口を洗つてやる事が大切てある。

（一）醋	七勺
食鹽	一合

水　六合

右混和口内洗滌

（二）硼酸　二〇、〇

水　五勺

右混和口内洗滌

若し口が臭かつたならば左の藥で洗ふのがよろしい

（三）クレオリン　〇、五

水　五勺

右混和口内洗滌

又内服として適宜の食鹽及重曹が肝要である。

其分量は左の通である。

（四）食鹽　五合

重曹　一〇〇、〇

水　適宜

右混和二回に分與（一日量）

（二）亞布答性口炎

徵候　唇や頰の内側、舌、口蓋に水疱が出來る。その水疱の中には奇麗な水が溜まつて居て點々こんなのが出來たり又は一ヶ所に集つた大きなのが出來たりする。その他前の加答兒性口炎と同じく痛みもあり涎も出す又食べ物も食べぬ。この病氣によく似た流行性鵞

口瘡と云ふ傳染病があるこれを見別けるのは流行性鵞口瘡は傳染するし又口の中ばかりでなく蹄冠の所にも水疱が出來るからこれで見別けるとよい。

原因　黴の付いた食べ物を與へたゝめに出來る。

療法　口の中を水で度々洗つてやる他左の藥で洗ふがよろしい

（一）硼酸　三、〇
水　五勺

右混和口内洗滌

（二）撒里矢爾散　五〇、〇
水　一合

右混和口内洗滌

其外加答兒性口炎の療法を參酌するがよろしい。

九、涎を出す疾病

（イ）咽頭梗塞（咽頭異物）

徵候　人間が咽頭に物をかけたと同じ様に頸を上げて涎を流し嘔吐するやうな風が見え呼吸が苦しくなり腹が少し膨れて來る。

原因　芋大根又は後産などのやうなものが咽頭にかゝつた時に起るのである。

療法　異物が外から手で觸る事が出來る時には手でそれを口の中に出す様にしてやるのである。

若し効がなかつたならば其異物(大根芋などならば)を皮の上から強く壓して碎いて仕舞ふのである。

それがうまく行かなかつたならば長い藤蔓をとつてその尖端に布片を巻き付けそれに油を塗つて食道の中に差し入れて異物を胃の中へ押入れるのである。

この三つの方法が駄目であつたならば左の藥を飲ませるのである。

オレーブ油　一〇〇、〇

右頓服

これで効がなかつたならば獸醫へ走るより仕方がない。

（ロ）食道梗塞（食道異物）

徵候　咽頭梗塞(咽頭異物)と同じ。

原因　咽頭梗塞(咽頭異物)と同じ。

療法　咽頭梗塞(咽頭異物)と同じ。

十、舐める疾病

舐病

徵候　牛が地上の藁や穢れた草や又は人の衣服、壁、柱、板など實際の食べ物以外のものを食べたり舐めたりする病氣である。

原因　石灰分や鹽氣の足りぬ時に起る。

療法　麥、豆のやうな食物を與へ食鹽を澤山に與へそして左の藥を飲ませるのである。

稀鹽酸　一五、〇
苦味丁幾　一〇、〇
食鹽　一〇〇、〇

右混和三回に分服（一日量）

十一、呼吸が早くなる疾病

肺充血

徵候　呼吸が非常に早くなるのがこの病氣の一番主な徵候である。呼吸する數が少くても一分間に六十多いものは百位もある。そして鼻を開いて呼吸する。眼や鼻の中などは赤くなつて時々鼠血が出る又泡の多く混つた汁を鼻から出す牛は今にも息が止まりそうである。

療法　先づ病牛の頸の部分の靜脈に傷をつけて澤山の血を出すのが肝要である。血を出した跡は木綿針か何かを立てゝその兩側を糸でくゝつて血を止めて置くのである。

又胸の部分へ左の藥を塗つて置くのである。

芥子精　一〇、〇
水　五勺

右混和數回に塗擦

そして左の藥を內用させるのである。

芒硝　五〇〇、〇
硝石　三〇、〇

右混和水に和し二回に分服

又水を手製の水鐵砲で灌腸する。若し衰弱の徵候があつたならば酒五合位を一回に飲ませる事が大切である。（手製水鐵砲は腦充血の項參照）

十二、咳嗽を發する疾病

（イ）急性喉頭加答兒

徵候　牛が頸を涎して頻りに咳嗽をし、初めの中は短いが後になると長い咳嗽になる。そして其度毎に粘い汁を鼻から出す。喉の上を觸ると非常に痛みを訴へる。呼吸が苦しそうになつて來る。試みに水を飲ませると皆鼻から出す。

原因　は主に感冒である。

療法　厩舍を餘り寒くないやうにして喉の處へ布片を澤山に卷きつけ（雜巾の大きい樣なのが一番よろしい）それに石炭酸百倍の液を三時間毎位にかけて喉の處を冷やすのである。

（ロ）慢性喉頭加答兒

徵候　咳嗽をするそして其度毎に苦しそうにする。呼吸が苦しそうで丁度何か咽喉にかゝつて居るやうに頸を延し嘔吐するやうな風もする。咳嗽するのは夜の中が一番多くて食物には變

りはない。三週間から四五ヶ月位も治らぬ事がある。

原因　は感冒である。

療法　牛を靜かな厩へ移して急性喉頭加答兒と同じく石炭酸水（百倍）で喉の處を冷やしてやるのである。

（八）急性氣管支加答兒

徵候　角や四肢、耳などは非常に冷え鼻が乾いて時々ブル〳〵と震るふ。食物は食べず乳も出なくなり。頻りに咳嗽をする。呼吸は苦しくて今にも窒息するやうに見える。

原因　感冒に罹つた時又は非常に弱い牛などはよく之に罹るものである。

療法　クレオリン、石炭酸、明礬水、單寧酸水、的列並底油などを熱してそれを牛に嗅がせるのである。五六日も經てまだ治らなかつたならば專門の人の診療を乞ふに限るのである。

（ニ）慢性氣管支加答兒

徵候　急性氣管支加答兒のやうな徵候を呈して非常に長びく病を云ふのである。

原因　感冒が元である。

療法　急性のものと同じくやはり藥を嗅がせる外になるべく味のよい滋養分のある食物即ち人參麩油粕のやうなものを與へて元氣を

附け又痰をとる爲めに左の薬を飲ませるがよろしい。

木蠟兒	二五、〇
水	適宜

右混和一日三回に分服

又的列並底油の熱したものを鳴がせるのもよろしい其分量は左の通りである。

的列並底油	三、〇
熱湯	五勺餘

右混和

（ホ）格魯布性氣管支炎

徵候　初め食が減つて咳嗽が頻りに出て少し重くなると呼吸が苦しそうになつて丁度笛でも鳴らすやうな音をたて咳嗽の度毎に薄い膜のやうなものを吐き出す事がある。今にも窒息するやうで口を開いて舌を出し漸く呼吸して居る。

原因　感冒

療法　これに罹つたならば既に療法はないと云つて差支ないからすぐ肉屋へ交渉して成るべく肉のある時に賣るがよろしい。

（へ）異物性肺炎

徵候　呼吸が早くなつて體溫が高くなつて咳嗽を發すそして呼吸すると甘い樣な臭がする。それが進んで來ると鼻を衝く樣な惡い臭

がする。そして臭い穢い色の鼻汁を出す。時には腐つた肉の片の様なものが鼻汁と一緒に出て來る事がある。その上に牛は時々身震いをする。最早や死ぬる様になると非常な下痢をする。

原因　他の嚥下(のみこみ)の六ヶ敷い病氣の爲めに食物が誤つて氣管の中へ入つたときにも起るし又た水藥を飲ませるときによく氣管の中へ入る事がある。その時にもよく此の病氣は起るものである。又胸の部分を強く打たれたり又は柱などで打つたりしたときに肋骨がよく折れる事があるこの折れた肋骨が肺に傷を付ける時にもこの病氣に罹る事がある。その外釘や針などを誤つて飲み込んだ時に創傷性心嚢炎と云ふ病氣が起つてそれが重くなるとこの病氣を起す事もある。

豫防法　藥を飯まぜるときに若し牛が咳嗽をしたならば藥は捨ても構はぬとして頭を下げてやる事が肝要である。

療法　左の一二三の藥を熱くしてそれを牛に嗅がせ四の藥を内服させるのである。

一、麥(たー)　兒(る)
右溫めて嗅がせる

二、クレオリン
右溫めて嗅がせる

三、石　炭　酸
右溫めて嗅がせる

四、的列並底油　一〇〇、〇
亞麻仁煎汁　一〇〇〇、〇
右混和二回に與ふ（一日量）

（ト）肺結核

徵候　短い弱い咳嗽を發する。後になると長く強くなる。痰は大抵無い。呼吸は困難になつて來る。久しく經ると營養が惡くなつて瘦せ衰へ消化は惡くなつて下痢と便秘と交互にある。體表の淋巴腺を見ると腫れて硬くなり痛みがある。

原因　黴菌の力である。

處置　傳染病であるから直ちに警察署へ屆出其處置に從はねばならぬ。

十三、胸に疼痛のある疾病

創傷性心囊炎

徵候　慢性の胃病（胃病の部を參照せらるゝと判る）の樣な徵候で呼吸が難氣であつて胸腹の部を抑へると痛みがあつて時々大便と共に血を出し胸の部分が少し腫れた樣に見える。時々病氣は治つた樣でも少し働かせるとすぐ發病する。そして瘠せ衰へて終には死んでしまふ事などがある。

原因　これは牛が誤つて釘や針などを飲んだ時に胃に立込みそして心臟の心囊と云ふ處へさし込んだ時に起る病氣である。

豫防法　女が牛の食物を拵らへる時などに針を落さない樣にする事が大切である。

療法　牛の胃袋を出して釘とか針とかを拔とるのであるが中々大手術で又よく死ぬる事などがあるから寧ろ賣てしまつた方が經濟で又安全である。

十四、熱の高い疾病

（イ）流行性感冒

徵候　大抵伏臥してウン〳〵うなり牙をギリ〳〵と音させ頰、咽頭部の下の皮に氣腫が出來、鼻の先が或時は乾き或時は濕つて居る熱が非常に甚だしくて時々ブル〳〵と慄ふ眼の內側は赤く腫れて涙を流し呼吸は早くて時々呼吸の困難を呈する。多少の鼻汁と咳嗽とがある。食慾と反芻はだん〳〵減つてとう〳〵無くなる。尿は少なくなつて濃く陰門から汁を出し時々流產するのもある。運動させると跛行するのもある頭を低れ眼瞼を少し計り開いて居る。

療法　左の藥を交互に飲ませるがよろしい。

撒里矢爾酸那篤留謨　一五〇、〇　適宜

溫湯

右混和一日三回に分服

芒硝　二〇〇、〇

硝石　三〇、〇

右混和溫湯に和し一日三回に分服

（ロ）牛疫

徵候　非常に高い熱が出て甚だしく弱つて來て食物は無論とらず頭をたれて飼槽に擡れ多くは伏臥して居る。毛の光澤は全く無くなつて五分十分毎位に劇しく震ふ。見た事のない人が來れば騷ぎ出し前肢を上げて地を叩くそして頭を上下左右に動かして乳などは殆んど出なくなり大抵咳嗽をする。鼻の內側は赤くなる。眼の內側は蒼白色になるか又は黑赤色になる。涙を出して頰の毛が濕める。初め大便は出ないが三日目頃から下痢するやうになり四五日目になると伏た儘糞を出す樣になる。口の內は赤くなつて下顎の處に麥粉を散らした樣なものが出來るそれが四五日目には皮が破れて黑赤い樣な色のただれたものが出來る。口の內は非常に臭い。そして牛から牛、又牛から色々な動物などを傳つて他の牛に傳染して一時に澤山の牛がこれに罹る。

原因　まだ充分研究がつんで居らぬが先づ細菌の力である事はたしかである。

處置　傳染病であるからこれに罹つたと思つたらば直ちに村長又は警察署駐在所へ其旨を告げ健全な牛を他へ移らせ村長及警察署の指揮に從ふがよろしい決して自由に之を動かしなどしてはならぬ。

（ハ）炭疽

徵候　頓かに熱が出て頭の部の粘膜は非常に赤く眼の內側の如きは腫れて出血して涙を出すものさへある。食慾と反芻は全く無くなつて全身が非常に衰弱して來る。

又眠つたやうなのもあるし時には之に反して狂亂するものもある。一寸した便秘と輕い鼓脹腹痛下痢下血などをする。時には尿の中に血を混ぜるものがある。口鼻眼肛門陰門などから血を出す事がある又身體の或る部分へ大きな腫瘍が出來て切つて見ると少しも膿を持つて居ない。他の牛には勿論馬、人などに傳染する。

原因　黴菌の力である。

處置　傳染病であるから之を發見したときはすぐ村長又は警察署長へ通知して其指揮を待つがよろしい。決して秘密にしてはならぬ。

十五、消化不良の疾病

(イ) 齒換不正（しかんふせい）

徵候　牛が涎を流して食べ物を普通程食べなくなる。

原因　牛の後の臼齒三本を除く外は乳齒が生えて後永久齒に換るものである。それを乳齒がいつまでも換らないで永久齒の生えるのを邪魔する爲めである。

療法　牛を倒してその齒を大工が使ふ釘拔きで拔きとりそして其後は成るべく柔かい食物を與へるのである。

(ロ) 斜齒（しやし）

徵候　舌が自在に動かず咀嚼するのに非常に長い時間がかゝり口の内に澤山の食べ物を殘し時々口の内から再び飼槽の中などへ出す事がある。

原因　これは齒が斜になつて居る爲めである。

療法　牛を倒し上下の顎を開き斜になつた齒を古い大工の用ふ鉋で平かにするのである。そして洗つて置けばよろしい。注意せねばならぬのは齒より外へ傷をつけぬ事である傷をしたならば左の藥で洗つて置かなければならぬ。

硼酸	三、〇
水	五勺

右混和口内洗滌

（八）創傷性胃横隔膜炎

徵候　この病氣は或異物を飲み込んだ爲めに起る胃病である。だから飲み込んだ異物に依つて徵候は同じでないのは當前である。澤山の砂を食つたり又は石などを飲み込んだ時には食べ物を食べても飲まず何時迄も咀嚼して居る。そして涎を流し通じはなくなり腹は硬くて石の樣である。それから背をまげてよく伏る。

針とか釘などのやうに尖つたものを飲み込んだ時は急に消化が惡くなつて腹痛を起し絶えず動いて後肢で腹を蹴るやうな風をする。食物を食べた後又は運動させた時に痛みがある。時々糞の中へ血を混

ぜて出す事がある。

異物が胃を破つて心臟に立込んだ時には創傷性心囊炎と云ふ病氣に罹る。（其項參照）

原因　前に述べた通り食物又はそれ以外の異物を飲み込んだ爲めである。

豫防法　常に女の頭髮から針などを厩舍の内へ落さぬやうにする事時々飼料を檢査する事。食鹽の給與を怠らぬ事などがこの豫防法である。

療法　この病氣に罹つたならば腹を切るより外にないから急に屠殺するのが一番よろしい。

十六、秘結する疾病

（イ）急性の胃弱と急性胃腸加答兒

徵候　食べ物を多く食べなくなつて來て活潑に運動しなくなり反芻が減つて來る。そしてよく伏臥する。しまひには反芻は全くなくなる。又鼻の孔を舐めなくなり大小便が出なくなる。耳や脚は溫かで鼻が濕つて居る。そして二三日で治る事がある。この病氣を急性の胃弱と稱へて居る。そしてそれが五六日も治らぬと眞の胃腸加答兒と云ふのになつてしまふ。即ち今迄の徵候より一層重くなつて來て牛は起つた儘ボンヤリとして居て食物を見せても一向顧みなくなる。

背をまげて肢を四本一と所へ集めて時々ブル〳〵と振ふ。鼻の先の露の出方が少なくなつて來て鼻の先の溫度も一定せぬ。眼の中は赤くなつて口の内に熱がある。そして粘い汁を流す。食べ物は全く食べなくなるが水は非常に飲む。

時々臭い匂の瓦斯を口から出すそして反芻は全くなくなつてしまふ。腹をおさゑると牛は痛みを表はす糞は堅くなつて黑くいやな匂がする。又時々下痢する事がある。下痢した時には糞の中に麥や豆などの消化しないものがある。腹が痛い爲めに後肢で腹を蹴る事もある。そして或は寢或は起きて居る。更に重くなると舌の上にドロ〳〵したものが出來て口の中は非常に臭く寢起する時にウン〳〵とうなる熱が出て來て耳や角は冷え鼻は乾いて來る。

原因　消化する力の弱い牛とか體の弱い牛とか又は老牛などはこの病に罹る原因になる。又食物を澤山にやり過ぎたり餘り冷いもの餘り熱い物を與へたりすると此病に罹る。其外食べ物を餘り急に代へ殊に消化の惡い食物を與へたり腐れたものを與へたり乃至非常に寒い時に放牧したり餘りに過度な運動をさせるとこの病氣に罹り易い。

療法　原因を取除くのも療法の内である。

それから一二日食物を與へないで左の腹の方を按摩してやるがよろしい又水鐵砲で水を灌腸して左の藥を飲ませるのである。

（一）吐酒石　八、〇
白藜芦根末　一〇、〇—二〇、〇
甘草　五〇、〇

右混和水に混じて與ふ（一日量）

（二）稀鹽酸　一五〇、〇
薄荷煎　一〇〇〇、〇

右一日三回二日に分服

（三）白礬芦根末　一五、〇
吐酒石　一五、〇
硫酸麻倔涅矢亞　一五〇、〇

泥菖根　七五、〇

右混和亞麻仁煎に混じ一日三回に分服（一日量）

（四）芒硝　五〇〇、〇
亞爾蘇　七五、〇
食鹽　五匁
溫湯　適宜

右一日二回に分服（一日量）

（五）稀鹽酸　五〇、〇
苦味丁幾　四〇、〇
水　一合

右混和二日に分服

（六）人工加兒爾斯泉鹽　三〇〇、〇

杜松子　一〇〇、〇

右混和飼料に散布して與ふ。（一日量）

（ロ）慢性胃腸加答兒

徵候　急性胃腸加答兒と同じなれど只非常に經過が長い爲衰弱が甚だしくなつて屢々呻吟してギリギリと齒を鳴らす樣になり口から屁の樣な匂のするものを出し胃の上をさはつて見ると食物がある爲め硬い。時として腹が膨れて來て大抵糞は出ぬ。若し糞が出ると丁度燒糞のやうに眞黑である。又糞に粘い汁や血などを混ぜて居る事

がある。時には下痢する事もある。

原因　急性の分が長びく事も此原因の一つである。其他齒が惡い爲めに咀嚼が不充分の時。胃の中に腫瘍が出來た時。胃の中へ異物が入り込んだ時。姙娠して子宮が胃をおしつけた場合などに此病が起るものである。

療法　大抵急性に用ふる藥は皆用ふるがよろしい其外灌腸も大切である。尙左の藥が効能が多い。

（一）硫酸麻倔涅矢亞　一五〇、〇

亞爾蘇　四〇、〇

稀鹽酸　一〇、〇

右混和一瓶の溫湯に和して與ふ(一日量)

(二) 芒硝　一五〇、〇
芦薈末　四〇、〇
葛縷子　二〇〇、〇

右混和八回に分與す(一日量)

(三) 健末　三〇、〇
瀉利鹽　三〇〇、〇
水　一升

右混和一回に與ふ。(一回量)

(四) 食鹽　五匁

芒硝　二五〇、〇

右混和一瓶の湯を加へて與ふ(一日量)

(八) 單純胃腸炎

徵候　食慾と反芻とは全く無くなつてしまふ。非常に腹が痛くそして他の腹痛と異て休まない。腹に當つて見ると痛い爲めに騷ぐ腹は甚だ張つて時々鼓腸のやうに膨れる。腹の鳴る音は聞えぬ。糞は止まつてしまふ。小量の糞が出ると粘い汁や血などを混ぜて居る。そして甚だ臭い。時としては嘔吐する事がある。口の中は乾いて水を飲む。

原因　風邪の時に多く發する。

療法　輕症には食を與へぬ事と水を飲ませぬ事が肝要で重症になつたならば腹を藁で摩擦してやる。又左の藥を腹へ塗つてやるのである。

一、的列並底油
二、樟腦精
三、芥子精

そして左の藥を飲ませるのてある。

芒硝　五〇〇、〇
溫湯　適宜

右二回に分服

尙効がなかつたならば獸醫の手を煩すが得策である。

（二）黴性腸炎

徵候　傳染病のやうに二三頭の牛が殆んど一緒に食物を嫌ひ出し腹痛を起し大に秘結する。終りになると血の混つた臭い糞を出し時には鼓腸を起す事もある。

原因　黴の付いた食物を食べた爲め中毒したのてある。

療法　左の藥を飲ませるがよろしい。

（一）芒硝　五〇〇、〇
溫湯　適宜

右混和二回に與ふ

（二）酒　五合

右一回に飲ませる。（一回量）

下痢のある疾病

幼牛の胃腸加答兒

徵候　若い牛が頓かに乳を哺まなくなり熱が出て四肢は冷え鼻の先は乾き下痢する爲追々に弱つて來る。

下痢した糞は泡を混えて居て非常に臭い。時には血を混えて居る。或時は下痢と皺腸とを兼ねて居る事もある。

原因　これは感冒や惡い食物や惡い乳などを飲食したとき又は齒の換はる時などに起るものである。

療法　病氣が食べ物に關係があつたならば食べ物を換える。乳に關係があつたなら他の牛の乳を飲ませて母牛の療法をせねばならぬ。又母牛と分けて置くのはよろしくない。そうすると一緒になつた時に、餘り澤山一度に飲むからである。下痢をとめるには左の薬を飲ませるがよろしい。

單寧酸　七、〇

水　適宜

右混和三回に分與（一日分）

又下痢をとめる爲めに左の藥を例の水鐵砲で灌腸するのもよろしからう。

丹寧酸　一、〇
明礬　一、〇
アラビヤゴム　七、〇
水　一合五勺

右混和灌腸（水鐵砲は腦充血の項參照）

十八、血を排泄する疾病

（イ）格魯布性腸炎

徵候　餘り病氣らしく見えず只糞の中に膜がある事がある。時としては慢性の胃腸加答兒の樣な徵候を呈する事もある。

原因　感冒

（ロ）胃腸出血

徵候　食物を混じた血を吐く事がある。これは胃の出血である。胃の出血と肺の出血とはよく間違ふものであるが肺の出血には泡が混つて居るし又咳嗽がある又血の色が紅色であるけれど胃の出血は食物を混ぜて咳嗽がなく血の色が黑く又凝るからよく鑑別は出來る

原因　この病氣は胃の中へ異物が入つた爲め胃を創した時、胃腸内へ潰瘍が出來て血管が創ついた時其他胃腸炎炭疽血液病などの爲めにも出來る。

療法　冷い水や氷などを飲食させてそして左の藥を飲ませるがよ

療法　先づ單純の胃腸炎の療法によつて差支ない。

ろしい。

丹寧酸　二五、〇
水　適宜
右混和一日三回に分服
明礬　二、五〇
水　適宜
右混和一日三回に分服

十九、腹の膨れる疾病

(イ)食滯

徵候　鼓腸によく似た病氣で食物を食べず背をまげ食べ物を喰へばウンウンとうなり普通と同じい糞を出し尾を振り後肢で腹を蹴る様な風をする。體の後の方をふりかへり時々頭を振る。眼はちやんと据つて何物も見なくなり無論反芻はせぬ。時々水を欲しがり涎を流し口の内に何もなくても咀嚼の眞似をする。左の腹が鼓腸のやうに膨れる。しかし鼓腸は瓦斯があるがこの病氣は食物がある爲鼓腸よりも堅い。そして呼吸は早くなり眼は赤くなつて飛び出し糞は黑い球の様なのを出す。

原因　牛は味のよいものは馬鹿に食ふものである。その食ふが儘に食はせたときには食滯になるのである。

療法　輕症には二日間計り食物を與へないで引張り廻す位でよろ

しいが重症には左の藥を飲ませるのである。そして若し治らなかつたならば胃を切開して滯たのを出さねばならぬから獸醫に賴むがよい。

（一）吐根末　四、〇（一回量）

右溫湯適宜に和して與ふ。

（二）芒硝　三〇〇、〇

右溫湯適宜に和して頓服（一回量）

（三）芒硝　四五〇、〇
白藜芦根丁幾　一五、〇

右混和溫湯適宜に和し一日三回に分服

（ロ）急性皺腸

徵候　左の方の腹が急に膨れて來て丁度大皺を叩く樣な音がする事がある。食物は少しも食べなくなり反芻などは全くやんでしまふ糞も出なくなり脚を開いて背をまげ耳を動かさず。呼吸が速くなつて眼の中が赤くなる。

原因　靑草とか其外胃の中でよく酸酵する食物を多く與へたに原因する事が一番多い。その靑草は胃の中で酸酵して澤山の瓦斯が出來るからである。

療法　これにかゝつたならばまだ輕症の中は腹を按摩して舌を引き出し頻りに水をかけてやるがよろしい。稍重くなつたならば酒五合計りを飲ませる事が肝要である。そして筆の筒位な竹を持つて來

てそれに疊を縫ふ樣な大きな針を其中に箝め一方剃刀で肋骨の終りの處の低くなつた部分へ孔をあけその針を入れた竹の筒をズット箝め込みその後中の針丈けぬきとるのである。そして中の瓦斯を約半分計り取つて少し休息させ又一時間程して出すのである。瓦斯を出さずに置けば大抵は死ぬものである。

（八）慢性皷腸

徵候　急性皷腸と慢性胃加答兒の徵候を呈するそして急性皷腸は一回瓦斯を取れば治るけれどこの病氣は何回取つても亦出來る。

原因　慢性胃腸加答兒の時にもこの病氣が起る。又牛の胃が弱つて來ると胃の中でよく醱酵する樣になるからそれも原因となるものである。その外結核病と云ふ傳染病の爲めに起る事が多い。

療法　瓦斯はとつても駄目であるから先づ元氣が衰へぬやうに酒を飲ませてそして慢性胃腸加答兒の療治をするがよろしい何時迄も治らなかつたらば專門の人に見て貰はねばならぬ。

二十、尿の減ずる疾病

急性腎炎

徵候　尿が非常に濃くなつてそして量が甚しく減じて來る重症に

なると全く出なくなつて五日から七日位續くものがある。歩かせると背を曲げて後肢を開き蹄を曳きずつて行くそして陰嚢が縮まつて居る。通じが少なくなつて重症は却つて下痢する食慾はだんだん減つてしまふ。

原因　腰の部を酷く打つたり仆れたりしたときにも起る。又寒冒とかその外傳染病の時にも起る事がある。或は激烈な藥を飲んだ時などにも起る。黴の付いた食物もこの原因になる。

療法　腰の部分へ布片を覆はせそれに冷い水を注いで冷やしてやる。そして左の藥を飲ませ効が見えなかつたならば獸醫の來診を乞ふがよろしい。

硝酵加溜謨　二〇、〇

溫湯　適宜

右一日二回に分服

二十一、發情のない疾病

春情不發

徵候　牛が發情する時節なのにも拘らず發情せぬ場合がある。之を春情不發と云ふのである。

原因　これには七つの原因がある。

(一)肥胖過度　牛が八合肉以上になると發情せぬ場合がある。

(二)情慾不滿　發情したものに交尾させないで置く場合にもこれ

に罹る事がある。

(三)老齡　餘り老年になると發情せぬやうになる。しかし飼方の充分なものは割合に老年迄發情するものである。

(四)卵巢の發育不全　卵巢が缺けて居るか又は發育が不充分であれば發情せぬ。

(五)牝牡兩性　一頭の牝牛が牡牛の生殖器も共に持つて居る事がある。その場合には發情せぬものである。

(六)生殖器の疾病　卵巢や子宮が病氣であれば發情せぬのがある

(七)双仔　双仔以上の場合には兩方共不充分な發育だからして發情せぬ事が多い。

療法　肥滿の牛は大に飼方を改良して痩せさせなければならぬ。其は酒二合位を二三日位持續して飲ませるか糯米五合位を粥か糊か位にして一週間位食はせても發情するものである又左の藥を飲ませるもよろしからう。

芫菁末	一—二、〇
溫湯	二合

右混和一回に頓服(五日間持續)

二十二、產の疾病

(イ)陣痛異常

徵候　最早分娩する樣になつても少しも陣痛がないか又は少しば

かりあるか乃至は非常に陣痛が強い事がある。

原因

（其一）陣痛過弱の原因

双子とか三子とかを姙娠したため非常に子宮が衰弱したとき又は老年弱年であるとか身體が衰へて居るときにも過弱の事がある。も一つは陣痛が長く續いた爲めに子宮が疲れたときにも起る。

（其二）陣痛過強の原因

陣痛過弱の原因の丁度反對の場合には陣痛が強過ぎる事がある。

療法

（其一）陣痛過弱の療法

先づ胎兒に繩を括り挽出すのである。若しそれで効がなかつたならば獸醫の診療を求めるがよろしい。

（其二）陣痛過強の療法

この場合には獸醫の診療を求めるのがよろしい。

（ロ）胎兒膜變硬

徵候　牛が分娩するときに膜は犢が産道迄來て居ても犢を包んで居る。膜が破れぬ爲め母牛は非常に努責するし其度毎に膜が産道に出るものであつて其爲めに子の産まれるのを邪魔するのである。

療法　手を以て其膜を破るのであるが其爲めに却つて産れぬ場合などがあるから丁度適當な時に破らなければならぬ。

（八）膣損傷

徵候　初産どきとか交尾の後に膣から血を出す事がある。この膣から血を出すのは膣に負傷をした爲めである。

原因　初産などの時は犢の爲めに交尾の時は陽莖の爲めに膣に傷をするのである。

療法　産後に發病したものには往々色々な汚ないものが附く爲め中々傷が治らぬ事があるからすぐに後産を取り出し中へ明礬水（明礬三に對し水百の割合）の注入をしてやるのである。

（ニ）膣脱

徵候　膣が陰門外へ出る事がある。始めは人頭大で追々大きくなつて腫れて來る。その袋の中頃に子宮の孔が見え其下に尿道の孔がある牛は何時もきばつて小便をする。

又小便は中々出ぬ場合が多い始め袋の色は赤色であるが終りには乾いて來て黑い點々が出來る樣になる。

原因　腹が非常に大きい時。皷腸症などの場合。犢の壓迫が甚しい時又は厩の床の後が餘り低過ぎる時などは此病に罹る事が多い。

療法　先づ明礬水（三に對し水百の割合）で袋をよく洗つて牛が餘りきばらぬ時を見計つて追々と

中へ戻し入れ上の繪の樣なものを陰門の上へあて頸輪に結んで置くのである。そして原因となるも

のを研究して取除き明礬水を中へ注ぎ込んで置くのが肝要である。

（ホ）子宮脱

徵候　子宮が陰門外へ出るので水を入れた嚢の様なのがぶらさがつて時には肢の下迄も屆く様なのが出る。始めは赤色の奇麗な嚢であるがすぐ塵や汚れたものが附く爲め穢れて黑くなり時には處々傷を生ずる事もある。

原因　膣脱に畧ぼ同じい。

療法　牛を倒して丁度膣脱の様に明礬水（三に對し百の割）でよく洗つて牛がさばらぬ時にゆる〳〵と中へ戻し込みそして澤山の明礬水を入れて丁度膣脱のやうな二合の編繩で再び出ぬやうにして置くのである。若し何回も出て効果がない場合には獸醫の手を煩はす方が得策である。

（ト）娩隨停滯

徵候　分娩してすぐ出なければならぬ後産が四五日も出ない。そして陰部へ少し計り穢れた膜の片をブラ下げて居る。食慾も少し衰へて來る。

原因　分娩の際に胎兒膜が胎盤に餘り强くつながつて居る爲めに中々離れない時又は子宮とか全身とかが餘り衰弱したため排出せぬ場合も多い。

療法　陰部にブラ下つた胎兒膜に糸を括り付けて五百匁斗りの石

を其糸に結び付けてそして酒二合斗りを飲ませ一二日待つて居る。

その中よく出て來る場合がある。

その中胎兒膜が腐つたために非常に臭い汁を出す樣になつたならば最早や捨て置く譯には行かぬ。先づ百倍の石炭酸水を腟の部に入れて置いて自分の手もそれで消毒し手に油を塗つて腟の内へ挿し込む手が子宮内に接した時にその膜の附いて居る部分を一つ一つはぎ左の手で少し宛引き出すのである。出し終つたならばその牛の飼方に注意して可成滋養のあるものを與へなければならぬ。

廿三、乳の疾病

（イ）乳管欠如と乳管狹窄

徵候　初産であつて乳房が非常に膨んで居て搾らうとしても一滴も乳が出ぬ事がある。乳頭の先をよく見ると乳の出る孔が見えぬ事がある。これは乳管欠如と云ふ病である。

又乳頭の孔が見えても出ない事がある。これは途中で孔が狹まつたのである。

原因　乳管の欠けたのは乳管が充分發育せない爲めで狹くなつたのは乳管を傷した爲めなどによつて起るものである。

療法　孔の全くないものは獸醫の手術を受けるのが肝要である。孔のあるものには餘り頭の尖らぬ大きい針を乳管の中へ挿し入れて孔を大きくするのである。それで効果がなかつたならば到底素人で

治療する事は六ヶ敷い。

（ロ）加答兒性乳房炎

徵候　乳房の上から見ても腫れて居る樣に見えぬし其外病氣らしい處は見えぬ。しかし乳房の上の方を抑えて見ると牛は痛みを表はす犢牛が乳を飲むとき又は乳を搾る時などに痛いため非常に騷ぐ。其乳をよく見ると塊があるし澤山の脂の粒が見える。間々血液を含んで居る場合もある。重くなつて來ると乳の中に膿を交へ乳房が腫れ觸つて見ると堅い。無論乳は澤山に出なくなり甚しいのは少しも出ぬ事もある。

原因　この病氣は感冒や乳房の中へ入り込んだ徵菌や毒などによ

つて出來る事が多い。

豫防法　少しも殘さぬやうに乳を搾るのである。

療法　何回も乳房を摩擦してやる。乳房の上を布で覆ふて溫めてやるのである。

（ハ）膿腫性乳房實質炎

徵候　頓かに乳が痛くなつて初めは乳房の上の方が腫れて追々皮膚が腫れて來る。腫れた部分は非常に熱が高くなつて乳はだんだん減つて塊が見える。乳に膿が澤山入つて居れば黃色に血が澤山あれば赤くなる。牛は非常に弱つて食物を採らなくなり熱が出て來て水を欲しがり甚だしきは跛行をしたり又は後肢がどうしても立たぬ事

などもある。

原因　人の手から乳の管の中へ色々の黴菌や毒などが入り込むのが此原因である。

療法　加答兒性乳房炎の療法をして見て若し効果がなかつたならば獸醫の來診を求める方が適當である。

（二）血乳

徵候　乳が赤色をして居るのである。

原因　植物毒の爲めである。

療法　麩を袋に入れて溫めてそれを牛の乳房に結び付けて溫めそして左の藥を飲ませるがよろしい。

硝石	一五、〇
芒硝	三〇〇、〇

右混和溫湯に和して三回に給與。（一日量）

廿四、陰部から汁を出す疾病

（イ）子宮出血

徵候　分娩に當つて子宮から澤山の血を出すのである。

原因　子宮の內面に傷をした爲めで胎兒や器械などが傷を付ける場合が多い。

療法　明礬三十瓦を水五合に溶解して子宮の內へ注入してやるのが最もよろしい。それでも尙効果がなかつたならば獸醫の手によら

なければならぬ。

（ロ）白帶下

徵候　陰部から粘つこい汁を出す。初めは淡いが追々粘つこくなつて臭くだんだん動物が衰へて來る。

原因　膣か又は子宮の病氣の爲めである。

療法　明礬三十瓦を水五合に溶いて之を膣の中へ注ぎ込み又硼酸も同じく三十瓦を水五合に溶いて注ぎ込むのである。そして一日二三回位何日も續けるのである。

廿五、陰囊の膨れる疾病

陰囊水腫

徵候　陰囊の下の方が非常に腫れて觸つて見ると柔かで餘り痛みもなさ相である。そして下から上の方へ壓して見ると中に水が溜つて居るからその水が動く。

原因　色々あるが睪丸とか精系とかを外から傷したために水が溜まるのである。

療法　初めの内は餘り觸らずに置くのがよろしい。餘り重くなつたならば先づよく切れる大きい針で陰囊に孔を穿つのである。そして中の水を出すのであるがそれで何回出しても出しても効能のないものは素人では一寸六ヶ敷いから獸醫の手術を受けるのが適當である。

廿六、腫瘍の出來る疾病

（イ）耳下腺炎

徵候　耳の下が腫れて痛みがある爲め食べ物を食べなくなる。だんだん重くなると膿んで來る。

原因　耳の下に傷をしたり又は傳染毒の爲めてある。

療法　麩を布袋に入れそれを熱い湯の中へ十分間位置きその熱いのを腫れた處へあてゝ溫めるので若し冷えたら又熱いのと代えてやるのである。そして膿をもつたならば孔をあけて膿を出せば治るのである。

（ロ）星菌腫

徵候　牛殊に雜種牝犢の頭頸喉頭上下の顎舌耳下腺などに境界のよく判つた小い腫瘍の樣なものが出來る。

そして疼痛がある。食物などは餘り變りはない。だんだん大きく硬くなる。色のない皮では中に黃色い膿がある事が判る。愈々重くなると嚥下する事が出來なくなるから終りには衰へて來る。試みに其腫瘍に孔をあけると澤山の膿が出るけれど又腫れる。そして中々治らない。

原因　草に付いて居る或黴菌が舌などの傷から入るからである。

療法　丁度一番よく腫れたと思ふときに二三の人を賴んで其腫瘍の方を上にして牛を倒しよく切れる剃刀で切るのである。さすれば

膿は自然に飛び出すのである。

一方裁縫用の鏝(こて)をよく燒いて置いてその傷から出る血を止める爲めその切口を燒き又腫瘍の中へ燒鏝を入れ大切な部分へあたらぬやう注意して內一面に燒くのである。

そして其牛の入れてあつた厩舍の敷藁を燒き棄て新しいのに換へその後は疑はしい草は食はせぬやうにするのである。その外藥を飲ませる方法もあるが此病氣を見出す頃には餘程の重症になつて居るから効能はない樣である。

（ハ）顎骨星菌腫(がくこつせいきんしゅ)

徵候　下顎の骨に硬い動かぬ腫れが出來だんだんと大きくなり始めは痛みもないが重くなると痛みが出來る。運動させると痛みは甚だしい。

咀嚼が甚だ不充分となつて誠にゆつくりとして居る。口から嚼みのこりを出しだんだん衰弱して來る。

口の中を調べて見ると臼齒が下の方へ凹んで居るか又は非常に飛び出して居る。愈々重くなると腫れた上の皮が破れてダラダラと臭い膿が出る。

原因　黴菌が齒の生え根あたりの傷から入り込む爲めである。

療法　弛んで居る齒を拔きとつてその齒の孔を左の藥で絶えず消毒するのである。

硼酸　六、〇
水　五匁

右混和

効がなかつたらば成るべく早く肉として賣らなければならぬ。

（二）氣腫疽

徵候　身體の或部分へ一つの腫瘍が出來てすぐ擴がつて身體一面に出來る。これにさわつて見ると丁度革紙のやうに截つても疼みがない。截り口から泡のやうな惡い匂のする液が出る食慾と反芻とが全く止んで後肢は腫瘍の爲めに跛行する。そしてよく他の牛に傳染する。

原因　黴菌の爲めであるが牛からすぐ牛に傳染する事はない。牛が傷をした時に其傷から傳染するのである。

處置　牛疫炭疽などと同じくすぐ警察署長か村長へ通知するのである。

廿七、水疱の出來る疾病

流行性鵞口瘡

徵候　勢が非常に出て食慾反芻泌乳が減じて少しづゝ涎を流す口は閉じて中々開かぬ。無理に開いて見ると口の粘膜は赤くなつて唇舌などに水疱がある。水疱は又乳房とか鼻の先などにも出來る。水疱の中の水はだんだん濁つて來てとうとう破れてしまふ。顎を動か

すと妙な音がする。

乳の味は非常に惡くなる。又これと一緒又は其前後に一本又は二三本の肢の蹄の方が赤く腫れて熱と痛みとがあつて二三日するとやはり水疱が出來る。そして牛、人などに傳染する。

原因　未だ詳かでない。

療法及處置　まづ村長警察署長の内一方へ急に通知して其指揮を待つ事が大切である。そして口の内へは第一藥、肢の部へは第二藥をそれぞれ與へるがよろしい。

第一法　明礬　三〇、〇

水　五合

右混和口内洗滌

第二法　木炭兒　適宜

右を蹄に塗布

廿八、不慮の疾病

（イ）唇又は頰の創傷及挫傷

徵候　牛が唇や頰の部分を創をするか又はその部分を挫いたときの病氣である。

療法　創が淺く小さくて皮がベロベロして居たならば剪刀で切つてしまふがよい。大きな創ならば木綿針に絹糸を通したので其部分を縫ふて三十倍の石炭酸で洗つて置く。口角や頰の深い創は中々治

らぬこんな時には銅の針金をよく石炭酸で消毒したのでこゝを縫ふて置くのがよろしい。

縫ふたならばその部分を他の物が觸らぬ樣に繫いで置くそして治つたならば其絹糸又は銅の針金を拔きとるのである。

（ロ）舌又は頰の炎症

徵候　その部分が挫傷や創傷又は刺戟する藥などの爲めに腫れて來て痛みが起り赤くなつて汁を出す時の病氣である。

療法　三十倍の石炭酸水でその部分をよく消毒する。若しそれで何時迄も治らなかつたならば鏝を燒いて其部分を燒いてやるのが肝要である。これを行ふには無論牛を倒さなければならぬ。

（ハ）頸筋膜及頸靱帶の挫傷及創傷

徵候　頸の部分が腫れて赤くなつて痛みがあるときは挫傷したのである又その部分の皮が破れて居るのは傷をしたのである。

原因　强く打つたり又は轉倒したり時に起るものである。

療法　創の部分をよく消毒(石炭酸三十倍の液)してそしてその創に汁が溜らぬやう絕えず出してやるのである。

（ニ）鞍傷

徵候　荷物を鞍かせる牛は鞍を脫がせてから半時間から一時間位すると背へ鷄の卵位な大きな腫れが出來る事がある。そしてその部分は熱くて又痒ゆみがあるため牛は角でかいたり壁で摩擦したりす

る爲め愈大きくなり又疼痛が出來て來る。それが輕ければすぐ治るが色々な病氣が重なつて來ると十四日もかゝる事があり又その部分が化膿して中々治らなくなる事もある。

原因　牛の皮が弱いのもこの原因の一つである。又鞍をのせる部分の形が惡かつたり又は鞍の構造が惡い時などに起るものである。

豫防法　鞍をのせるに成るべく廣い面積にのせる樣にする事と鞍をのせる前に牛の皮と鞍との間に軟かい物を入れて置く事と或る部分は非常に鞍の重みが應え或部分は反對な樣な事のない樣にする事等がその豫防法である。

療法　腫れて居らなかつたらばその部分を清潔にして左の藥を塗つて置くがよろしい。

（一）華攝林	適宜	
右塗布		
（二）單寧酸	適宜	
右塗布		
（三）硼酸	一五、〇	
華攝林	五〇、〇	
右混和塗布		

發病してまだ十二時間迄經たぬ創には清潔な布片をあてゝ其上へ水

をかけてやる事がよろしい。

十二時間から二十四時位を經つた創にはその部分を按摩してやる事と又溫い湯を絶えず當る樣にしてやるのである。その以上の病氣は獸醫の診療を乞ふた方が得策である。

（ホ）革具傷

徵候　鞍をのせる爲めに鞍に附いて居る色々の道具を附着けるものである其爲め牛はよく頸輪の爲めに頸の上の部を創するものである。

療法　鞍傷と同じでよろしい。

（ヘ）脛部の損傷

徵候　兎に角脛の部を傷したのであるから徵候は一定しない。只非常に痛いものはやはり肢の上下に跛行をする。尙負傷した部分が腫れたり血が出たりするのはその傷のしかたに依つて違がある。

原因　蹴られたり打たれたり又は物が刺し込んだ時などに起るものである。

療法　若し傷が新しければ絶えず冷やすのである。そしてベロベロした皮があれば皮を切つてしまつて差支ない。膿をもつたものは切つて膿を出して石炭酸水(三十倍)で洗つて置くのである。要するに獸醫の手術を賴むがよい。

廿九、禿の出來る疾病

匐行疹

徵候　牛の頭又は頸に圓い禿が出來るのでこれが一ヶ所に集まつて大きいのか又は黑く小いのがあるのもある。禿は皮よりも少し高い全く禿げると薄い灰色の魚の鱗の塊のやうに見える。少し痒みがある爲牛は角などでそれを禿ぐ事が多い。そして他の牛によく傳染する。

原因　徵菌の爲めであるが體の不潔な時に丁度虱が出來ると同じく出來る事が多い。

豫防法　原因を取除く爲毎日一回宛體の掃除をせねばならぬ。

療法　病牛を他の牛と分ける。そして左の藥を塗つて其皮を取る。

軟石鹼　適宜

右塗布

皮をとつてから左の藥を絶えず塗るのである。

撒里矢爾散　一〇、〇
酒精　一〇〇、〇

右混和塗布

三十、起立し能はぬ疾病

（イ）分娩前起立不能

徵候　牛が將に分娩しようとする時に急に後肢が立たなくなるそして一二日して治るのもあるし分娩する一寸前に治るのもある又分

娩後に治る乃至は分娩後に斃死する場合もある。

原因　腹の子が神經を壓迫する爲めに起るものである。

療法　先づ床傷をせぬやうに澤山の敷藁を與へてそして何回も寢返りをさせてやる。腰の處へ左の藥を塗つて二日位治るか否かを見るのである。そして治らなかつたならば腹の子を引出してやらねばならぬ。

的列並底油　適宜

右塗布

（ロ）後體麻痺

徵候　牛は起つ事が出來なくなり重症となると身體を打つても痛みを感ぜぬ樣になる。尿や糞は出なくなり追々と衰へて來る。只輕症の中は食べ物は普通と大した變りはない。

原因　この原因は色々とあるが難産した時又は未だ産はせないでも腹の中に大きな子が居るとき腰を痛めたときなどに此病氣を起すものである。又其外脊髓の色々な病氣によつて來る事もある。

療法　敷藁を澤山に與へて時々身體を寢返らし左の藥を飲ませるのである。

芒硝　一〇〇〇、〇

水　適宜

右混和一日三回二日に分服

そして按摩をしてやりその部を溫める爲めに袋に麩を入れそれを溫めて腰へ結びつけて置くのである又左の藥を絶えず塗つてやるがよろしい。

的列並底油　適宜

右塗布

（八）産褥熱

徵候　分娩してから二三日乃至一週間して牛が俄かに食慾がなくなつて胃に少し瓦斯が溜まつてウンウンとうなり頻りに後肢を蹠がいて居るがやがて倒れる。前肢は腹の下に折つて居て頭を後の方へ曲げて居る。頭を元の樣にしても亦すぐ曲げて仕舞ふ。眼は大抵動かないで何か見つめて居る樣に見えるが人が手を近づけても閉ぢない。藥などを飲ましても飲み込む事が出來ず耳や肢は氷のやうに冷え涙を出して居る。死ぬるやうになれば眼球が陷んで遂に睡つた儘死ぬる。

原因　不明。

豫防法　飼ひ方に注意して食物を餘り多量に與へないで靑草豆などのやうなものを餘り多く食はせぬ事と毎日少しづゝの運動をさせる事である。

療法　左の藥を飲ませるのである。

芒硝　一〇〇〇、〇

溫湯　適宜

右混和一日三回に分服。（一日量）

そして速かに獸醫の來診を乞はねばならぬ。

（二）腦脊髓膜炎

徵候

△輕症　食物を多く食べなくなり眼が赤くなつて歩かせるとへロへロとする。

△重症　食物を食べなくなる。眼の内が黄赤色又は黑赤くなつて舌は黑く頭の方が熱くなつて眠つて居る樣に見える。皮にさわつて見ると痛みがあるか又は全く痛みも痒みもなくなり一寸の音などにビックリする。時には眼が見えなくなつて唇舌喉などが痲痺れる爲め粘つこい涎を流し頸を横に傾ける事もある。身體は支へる事が出來ぬので始終倒れて居る糞は大抵秘結し尿は非常に濃くて黑い。そして分量は少ない。重症は四五日で死ぬるが輕症は二三週間で治る。

原因　黴菌の爲めてある。

療法　重症は殆んど治療の効がないから早く屠殺した方がよい輕症は腦炎と同じく頭を水で冷やし左の藥を飲ませる。そして効がなかつたならば獸醫の來診を需むるのが肝要である

芒硝　五〇〇、〇

溫湯　適宜

右混和二回に分與。（一日量）

（ホ）脊髓骨折

徵候　牛が倒れた儘でどうしても起きる事が出來ず前肢でピンピンと起きる用意はするが効がなく試みに後肢の付け根の上を叩いて見ると非常に痛みがある。

時には妙な音を立てる事がある。初めの中は食物は食べるが後には食べなくなりしまいには非常に衰へてしまふ。

原因　急に倒れたり交尾の際に倒れたりすると脊髓の骨が折れるのである。

療法　は既にない。急に肉にした方が得策である。

卅一、跛行する疾病

（イ）肩跛行

徵候　前肢は運動の時に普通よりもヅット擧り方が少なくて跛行して蹄を引き摺つて居る。つまり蹄を上へ擧げると痛みがあるためである。殊に凹凸のある土地を歩かせると跛行が甚だしい。そして後退りさせると決して肢を擧げず只蹄をひきづゝて歩くのを見る。

原因　この原因は色々あるが兎に角様々の病氣から來るものと考へたならば差支ない。

療法　先づ牛に仕事を休ませ水に肢をつけて置く事及び肢の部の

按摩が大切である。十四五日も治らなかつたなら大に水をかけてやる事が肝要である最後には左の藥を塗つてやるとよろしい。

的列並底油

右塗布

僂麻質斯(別項參照)の爲めに成た病氣の樣であつたならば麩を袋に入れたのを溫めてその部に結ひつけ絶えず溫めてやる事と其病氣の療法をするのがよろしい。

中々治らなかつたなら無論專門の人の診療を乞ふのは必要である。

(ロ)膕跛行

徵候　牛を歩かせると歩き方が遲く肢幅が狹く後肢の一本又は兩方がキンとして絶えず蹄の先で土を踏んで居る。そして肢を擧げるときと下げるときと兩方共跛行する。又跛行は牛を廻らせるときか後退りさせるときに殊に多い。

原因　肩跛行と同じく一定した原因はない只後肢の付け根に色々な病氣がある爲めである。

療法　肩跛行と同じい療法を施せばよろしい。

(ハ)撓骨神經麻痺

徵候　前肢の或神經が麻痺るので肢に痛みがある樣で起つて居る時に病氣な肢の肩と肘は伸びて來て肘から下の關節を皆な腹の方へ向けて曲げて仕舞ふ。そして蹄の先を少し地に付けて居るから丁度

病氣の肢が他の肢よりも五六寸長い樣に思はれる。しかし其病氣の肢を人間が眞直(ますぐ)にすればやはりそれで體を支へる事が出來る運動させるとその肢では體を支へる事が出來ぬから跛行をするのである又も一つのになると平地ではうまく歩いて凹凸(でこぼこ)のある土地では跛行するのもある。そしてよく蹉跌(つまづ)く事がある。

療法　病氣の肢を始終按摩してやるのである。そして蹉跌く樣なのは絶えず軟い土地を運動させるがよろしい。又肢に水をかけてやるのも効能は多い。そして五六廻をすれば治るものである。

（二）指關節轉捩(しくわんせつてんるる)

徵候　前肢の指關節が痛い爲めに頓かに牛はその肢で體を支へなくなり指の骨を腹の下へ曲げ運動させると肢を上げても下げても兩方で跛行する。殊に牛を廻らせると跛行は甚だしい。そして肢の痛い部分は多少熱くなつてさわると非常に痛みを訴へる痛い肢をよく見ると必ず指關節の近傍に負傷して居る。

原因　肢の弱い牛はこれによく罹るのは勿論であるし道が惡かつたり凸凹があつたり大きな孔へはまり込んだりなどしたときによく轉捩(ねじれ)るのである。

療法　無論その牛は當分使つてはならぬ。そして澤山の寢藁を敷いてやるのは大切である。例の穀を袋に入れて溫めて痛い處へあて

その上を強く繃帶して置くのである。効がなかつたならば丸い鐵を燒いてその部分へ澤山の灸をすへるのである。

（ホ）佝僂病

徵候　犢の肢の關節が腫れて背と肢の骨が曲つて來る。肋骨が處々腫れて臀の骨が狹くなつて來る。そして何時も寢て居て歩かせると跛行する。

原因　身體の中に石灰が不足する爲犢の骨がまだ柔かな時からやはり柔かでとうとう堅くならずに仕舞ふのである。

療法　骨軟症（次項參照）と同じく原因を取り除く爲め麥豆など石灰に富んだものを食べさせそして左の薬を飲ませるのである。

人工骨粉（又は過燐酸石灰）　一〇、〇

右飼料に混じて三回に分與

（ヘ）骨軟症

徵候　初めの中は獸醫でさへ見分ける事は出來ぬ位徵候と云ふべきものはないが時々消化が惡るくなつて砂を舐めたりなどする事がある位である

少し進んで來ると歩くのに不自由になつて時々跛行もするそして體の肢勢が妙になつて寢起に痛める樣子が見える。

背や肩などをおさへて見てもやはり痛みがある。

更に進んで來ると何時も寢て居るやうになり肢の關節が痛み出して

身體が非常に弱つて毛の光澤などがなくなつてしまふ。交尾の時などに骨が折れる。

原因　身體に石灰分が不足して居るのである。

豫防法　石灰に富んだ食物即ち豆、麥、油粕などを與へるのである。出來るならばそれらの澤山にある地方へ賣るのが最もよろしい。

療法　左の藥を服用させるのである。

人工骨粉（じんこうこつぷん）	二五、〇
又は過燐酸石灰（くわりんさんせつくわい）	二五、〇

右飼料に和し三回に與ふ。

勿論最も重症ならば全治の見込はないから肉に賣る方が得策である。

（ト）膿毒性關節炎（のうどくせいくわんせつえん）

徵候　犢が生れて七日迄の間に急に乳を哺（の）まなくなり肢の關節が非常に腫れて熱と痛みとがあつて歩かせると跛行をする。早く治るものは一二日であるが若し長びけば下痢と便秘と交互にやつて黑い糞を出す樣になり病氣が他の部分へ行けば非常な病氣になつてとうとう死んで仕舞ふ事がある。

原因　生れたとき臍に傷をして居てその部分から色々な毒が入るから起るのである。

豫防法　先づこれに罹らぬやうに臍の部分を消毒する爲參兒を塗つて置く事が肝要である。

治療法　其腫れた部分へ針を刺して内の膿を出しその跡は三十倍の石炭酸でよく洗つて置く事が一番肝要である。無論此場合成るべくならば獸醫の來診を乞ふのが得策である。

（チ）關節（くわんせつ）僂麻質斯（りうまちす）

徵候　牛が急に跛行をする。よく肢をさわつて見ると關節が腫れて痛みがある。丁度肢の骨が折れた樣な工合に思はれる。大抵ならば横に臥（ね）て時々うなり齒をギリギリとならし起きる事を嫌ふ。其他この病氣に罹ると色々外の病氣に罹つて時には非常に長びくのもある。

原因　この原因はシツカリ判らぬが先づやはり感冒のやうである。

豫防法　感冒に罹らぬやうにする事と牛の後産（あとざん）を殘して置かぬ事が大切である。

療法　左の藥を交互飲ませる事を忘れてはならぬ。

（一）撒里矢爾散那（さるちるさんなとりうむ）篤留謨　一〇〇、〇　適宜
溫湯

（二）芒（ぼう）硝（せう）　一〇〇、〇
重（ちう）曹（そう）　三〇、〇
食鹽　適宜

右混和一日三回に分服

右混和一日三回前藥飲用後一時間に於て内服させる。

又關節の部分へ左の藥の中何れかを塗つてやるとよろしい。

（一）樟腦精　一五、〇
華攝林（又は豚脂）　一〇〇、〇

右混和して塗擦

（二）イヒチオール　一〇、〇
華攝林（又は豚脂）　一〇〇、〇

右混和して塗擦

（リ）筋肉僂麻質斯

徵候　此病氣に罹ると突然肢を緊張して或肢に力を入れず其肢の關節を屈げず成るべく開いて居る運動させると跛行をして時々其肢から妙な音が聞える。

そして運動させると肢の痛みと跛行とが輕くなつて來る。時には熱が出て食物を食べなくなる事もある。

原因　は感冒が主で濕ぽい穢舍寒い風賊風または働いて汗が出たのを急に冷やすなどはやはりこの原因になる。

療法　痛い肢に樟腦精と云ふ藥を塗つてすり込んでやる。又三四時間川へ入れて冷やしてそして牽き歸つて布片をその部分へ卷き付けて置くのもよろしい。左の藥を飲ませるのが大切である。

撒里矢爾散那篤倒謨　一〇〇、〇
溫湯　適宜

右混和一日三回に分服

病牛の素人療法〔終〕

附錄

●農家に常に備へしめたき藥品及其市價

	一磅の價格		一磅の價格
三十倍石炭酸	十二錢	人工加兒爾斯泉鹽（サルチルサンナトリユーム）	十四錢五厘
硼酸	十九錢	健質亞那末	八十九錢
明礬	二十四錢	龍膽丁幾	三十七錢
クレオリン	三十錢	的列並底油	四十四錢
丹寧酸（一オンス）	十二錢	硝石	二十九錢
芒硝	十錢五厘	ガーゼ	二十五錢
芒硝又は瀉利鹽	七錢八厘		

脫脂綿 八十瓦 十錢 重曹 十錢

●瓦と匁との對照表

瓦之部	匁之部	瓦之部	匁之部
一瓦	二分六厘	四十瓦	十匁四分
五瓦	一匁三分	五十瓦	十三匁
十瓦	二匁六分	六十瓦	十五匁六分
十五瓦	三匁九分	七十瓦	十八匁二分
二十瓦	五匁二分	八十瓦	二十匁八分
二十五瓦（一オンス）	六匁五分	九十瓦	二十三匁四分
三十瓦	七匁八分	百瓦	二十六匁
三十五瓦	九匁一分	百五十瓦	三十九匁
二百瓦	五十二匁	四百瓦	四百十七匁
三百瓦	七十八匁	四百五十瓦（一磅）	百十七匁

大正二年七月廿五日印刷
大正二年八月一日發行

正價金二十五錢

〔病牛の素人療法〕

著作權所有

著者　齋木茂

發行者　東京市京橋區南傳馬町二丁目十三番地　穴山篤太郎

印刷者　同所　落合彌三

發行所　東京市京橋區南傳馬町二丁目
電話京橋一〇五五番
振替口座東京六九六番
有隣堂

274
344

畜牛家諸君の絶好伴侶

▲乳牛及製乳新書　河相大三君著　正價五拾錢　送料弊店持

▲相牛學　江馬九三郎君著　正價五拾錢　送料弊店持

▲牛體鑑識法　賀島政基君著　正價貳拾錢　送料弊店持

▲牛馬取引便覽　金澤常勇君著　正價參拾錢　送料弊店持

▲病畜看護法　安部宗憲君著　正價壹圓　送料弊店持

▲家畜治療寶典　渡邊閑一郎君著　正價八拾錢　送料弊店持

▲牛病通論　勸農局編　正價壹圓廿錢　送料八錢

▲獸醫畜產法規集　農商務省編　正價七拾錢　送料弊店持

終